

宗教文化論Ⅰ

科目ナンバリング RES-101

【Ⅱ】 選択 2単位

藤本 龍児

1. 授業の概要(ねらい)

あなたは、世界のなかで最も宗教的な国はどこだと思いますか？
日本では、中東にあるイスラームの国々を挙げる人が多いかもしれません。
しかし統計調査などによると、そうした国々と同じくらい宗教的なのがアメリカです。
この事実は、日本人が持っているアメリカのイメージとは大きく異なるでしょう。
アメリカは、ファッションや音楽、政治制度、経済システムなど、いずれも最先端にいます。
したがって、近代化の先頭を走ってきたのがアメリカだ、という印象が持たれてきました。
ところが、そうしたアメリカ像は、とくに21世紀に入ってから変更を迫られるようになっていきます。
それではアメリカは、どういった意味で宗教的なのでしょうか。
あるいは、どうして現在でも宗教的なのでしょうか。
この講義は「宗教」について、アメリカ社会とその歴史を例にしながら学びます。

2. 授業の到達目標

現在でも「宗教」が大きな影響力をもっていることを認識し、その理由について理解する。

3. 成績評価の方法および基準

- ・原則として8割以上の出席を前提とする。
- ・適宜おこなう感想文の提出を必須とする。
- ・試験において講義内容とテキストにかんする理解度を問う。
- ・以上に授業態度をくわえ、総合的に判断する。

4. 教科書・参考文献

教科書

藤本龍児 『アメリカの公共宗教：多元社会における精神性』2009年 NTT出版

5. 準備学修の内容

この講義には、特別な前提知識は必要ありません。
しかし内容を理解するには、自分の経験と合わせて考えることが重要になります。
講義中はもちろん、日常生活のなかでも、実体験と合わせて考えてみるようにしてください。

6. その他履修上の注意事項

この講義だけで一つのまとまりをもっていますが、続けて宗教文化論Ⅱを履修することが望ましい。
講義は以下のような内容を計画しています。ただし、受講者の理解や関心に応じて柔軟に改変していきます。

7. 授業内容

- | | |
|--------|----------------|
| 【第1回】 | はじめに |
| 【第2回】 | 宗教改革 |
| 【第3回】 | 諸教派の植民 |
| 【第4回】 | ピルグリム・ファーザーズ |
| 【第5回】 | ニューイングランド |
| 【第6回】 | 大覚醒運動 |
| 【第7回】 | ファンディング・ファーザーズ |
| 【第8回】 | 合衆国憲法と信教の自由 |
| 【第9回】 | 諸教会の伸展と変容 |
| 【第10回】 | 第二次信仰復興運動 |
| 【第11回】 | アメリカ生まれのキリスト教 |
| 【第12回】 | 明白な使命 |
| 【第13回】 | 奴隷制をめぐる対立 |
| 【第14回】 | リンカーンの宗教観 |
| 【第15回】 | おわりに |